

令和5年度第1回留萌市総合教育会議 議事録

- 1 と き 令和5年9月19日(火)
- 2 と こ ろ 留萌市役所3階 3・4号会議室
- 3 出 席 者 市 長 中西俊司
 教育委員会教育長 高橋一浩
 教育委員会委員 西川知恵
 教育委員会委員 山本浩
 教育委員会委員 室本直俊
- 4 欠 席 者 教育委員会委員 松村香里
- 5 関 係 者 留萌商工会議所副会頭 堀松秀樹
 第6次留萌市総合計画策定市民会議座長 伊端隆康
 留萌市小中学校校長会会長 早坂康
 留萌市学校給食センター運営委員会会長 安達仁
 留萌市学校給食会会長 加藤健太
- 6 関 係 職 員 副 市 長 渡辺稔之
 生涯学習課長 伯谷英明
 子育て支援課長 中村美幸
 学校給食センター長 松本洋
 政策調整課長 真鍋磨
 財 務 課 長 菊池昭久
 政策調整係長 山下雅司
- 7 事務局職員 教 育 部 長 柴谷理意
 教育政策課長 佐伯忠昭
 学校教育専門指導員 長尾真
 教育政策課企画総務係長 堺田直樹
 総 務 係 長 岡本直也
- 8 傍 聴 人 7名
- 9 開 会 宣 言 午後1時25分
- 10 議 事 録

発言者	内容
柴谷部長	それでは定刻より少しお時間が早いですが、本日のご出席者の

	<p>皆様がお集まりになっておりますので、只今から令和5年度第1回留萌市総合教育会議を開催いたします。本日、松村委員より欠席の申出があり、欠席となっておりますので、お知らせいたします。</p> <p>本日の会議につきましては、協議・調整案件といたしまして、「新たな学校給食の導入について」を議題としております。なお、本日の会議には、留萌市総合教育会議設置要綱第4条第4項の規定において、「会議は、必要があると認めるときは、関係者又は学識経験を有する者の出席を求め、又はこれらの者から意見を聴くことができる。」と定められておりますことから、本日につきましては、学校給食の民営化により地元事業者の食材調達の確保や雇用拡大など市内経済への影響もありますことから、地元経済界からの留萌商工会議所副会頭、堀松秀樹様。また、第6次留萌市総合計画策定市民会議座長であり、市の公共施設の指定管理を受けている民間委託事業者の代表として留萌スポーツ協会理事長、伊端隆康様。また、学校給食に直接関係のある学校、関係機関といたしまして、学校現場からは留萌市小中学校校長会会長、早坂康様。学校給食の運営、管理、事業内容などを審議する留萌市学校給食センター運営委員会会長、安達仁様。学校給食の食材調達や給食費などを管理している留萌市学校給食会会長、加藤健太様に関係者としてご出席いただいているところでございます。</p> <p>それでは開催にあたりまして、中西市長からご挨拶をいたします。</p>
中西市長	<p>皆さんお疲れのところ、本当にお集まりいただき、誠にありがとうございます。改めて、留萌市長の中西でございます。どうぞよろしくお願いいたしますと思います。</p> <p>今日の総合教育会議につきましては、市長である私と教育委員会が相互に意思疎通を図り、教育行政の課題や目指す姿を共有し、より一層民意を反映させながら、教育施策を総合的な見地から推進していくため、平成27年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて、この総合教育会議が設けられ、現在まで進めてきたところです。</p> <p>本日の議題であります、新たな学校給食の導入について、給食センターの現状と課題、新たな学校給食導入の基本的な考え方、具体的な実施内容や期待できる効果等につきまして、これまで事務局から説明をされてきたと思います。</p> <p>私としては、既存施設と民間活力の有効活用により、学校給食事業の民営化は、市全体にとりましても高い効果が見込まれるものであり、ぜひとも進めていきたいと考えているところです。ただ、現在、教育委員会における協議の中では、この事業を進めていくことについて、まだまだご理解をいただけていないということで認識をさせていただいております。</p>

	<p>そのようなことから、本日は、改めて市長部局の考え方などについて、説明をさせていただき、教育委員会の皆様との協議、調整を図らせていただく場としたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
柴谷部長	<p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>議事の進行につきましては、留萌市総合教育会議設置要綱第4条第2項の規定により、市長に議事の進行をお願いいたします。</p>
中西市長	<p>はい。それでは、協議・調整事項「新たな学校給食の導入について」を議題とさせていただき、この議題につきましては、留萌市副市長から説明をさせていただきます。</p>
渡辺副市長	<p>はい。留萌市副市長の渡辺でございます。大変恐縮ですが、座って説明をさせていただきます。</p> <p>今まで教育委員の皆様には、市長部局の考え方を説明する機会がございませんでしたので、私から本日は説明をさせていただきます。</p> <p>まず、資料にありますとおり、現在、留萌市では、留萌市の持続的な発展を目指して、5つの各拠点づくりを進めております。</p> <p>その中の一つが、これからご説明をいたします「子育て支援と食品製造の拠点づくり」で、1枚お捲りいただきたいのですが、既存施設の有効利用と民間活力を活用して、留萌市に拠点を構えてもらう民間給食事業者を誘致することで、新しい子育て支援と食品製造の拠点を形成していこうという取り組みでございます。この取り組みを実施するにあたりましては、資料中段にある7点の留萌市が抱える課題、問題を解決したいとの考え方が、市長部局にはあったところでございます。また、これと並行して資料には記載はございませんが、市長部局では財政負担の軽減を図ることとした平成21年の行財政改革推進本部の方針、そして、平成22年の給食センター運営委員会からの給食センター内部の施設・機械、これらの整備・更新が終わったら、学校給食センターの民間委託を再検討するという答申に基づきまして、これが令和3年に終了しましたので、学校給食の民間委託による財政負担軽減の側面でも、検討を開始したところでございます。</p> <p>結論から言いますと、市長部局としては、従来から全国の市町村が導入している学校給食の民間委託では、財政負担の軽減は図られるものの、留萌市が抱える、先ほど7点がございましたが、学校給食や子育て、地域経済などの課題解決には至らないというふうに考えたところでございます。</p> <p>この資料の中段左の②からお話をしたいと思いますが、学校給食センターの有効活用につきましては、現在、少子化の影響を受けて、今の施設・機械のスペックであれば、本来2千食の給食が作れるという状況でございますけれども、現在1, 200食しか作っていない実態にございます。また、土日、祝日、夏休みなど</p>

長期休業も含め、年間160日以上が稼働してない状況にもございます。今後、さらなる少子化の進行を受けて、学校給食センターが、より低機動、低稼働となる施設になることは必至な状況でございます。

そして特に深刻に捉えておりましたのが、資料中段左の「③ 調理員の慢性的な不足」の問題です。近年、15名の必要人数を確保できない状況が続いておりました。そして、この夏には、とうとう約半分の8名で調理を行うという緊急事態が生じたところでございます。現在は、市教委の努力で何名かを確保したところでございますが、それでも定員に満たない状況が続いている状況でございます。この調理員不足が、今後、子どもたちに学校給食が提供できなくなるという最悪の事態を引き起こすと市長部局、市教委と一致して懸念をしていたところでございます。調理員確保は、市の予算を増やせば解決できるような問題がございません。そして、過疎化が進行している地域で、調理員が確保できないことは、留萌市だけではなくて、全国的な問題になっているところでございます。今後も人口減少の傾向が続くことになれば、ますます確保困難さが増していくということは火を見るよりも明らかだと思っております。いくら予算を計上しても解決できるものではないということ、今一度ご理解をいただきたいと思っております。

次に資料中段左の④でございます。食物アレルギーを持つ子どもが増えていて、保護者負担の軽減の面でも、レベル4と言われている代替食材を活用した給食を提供してほしいと望む保護者が増えてきているというふうに伺っております。

そして、資料中段左の⑤になります。当然、少子化の影響をみますと、給食数が減少していくということにもなります。食材などを供給している地元事業者の経営にも影響が及ぶことは必至でございます。

そして、⑥になります。市長部局では、学校給食とは別に、時代の変化に合わせた子育て支援を始めていきたいと考えておりました。特に、保護者の働き方の変化、共働きが当たり前の時代でのお弁当作りの負担、これらを軽減する取り組みを何とかして始めたいと考えていたところでございます。さらには、こども家庭庁から今年6月、また、厚生労働省からは7月に、夏休みなどの長期休業中に子どもたちに給食を提供するよう自治体に通知があったところでございます。この2つの通知とも、喫緊の課題でございまして、少しでも早く対応、実現を、給食提供をしていきたいと考えておりました。そのためには、お弁当の代わりになる給食提供ができる施設がどうしても必要になります。また、一方で給食提供を行うノウハウも必要となります。さらに、幼稚園などから給食を提供するよう要望が市や市教委に届いておりますが、

その仕組み、施設の確保など、こちらも新たなノウハウが必要となります。

最後の⑦ですが、高齢化の進行も、留萌市にとって深刻な問題です。台所に立てないお年寄りも増えていきます。高齢者の自宅にバランスのとれた給食を届けられる施設や仕組みも、早急に構築したいと考えていたところでございます。

これらを総合的に解決する方法として、市長部局、市教委で考えたのが、従来から行われている学校給食の民間委託ではなく、留萌市が抱える給食等に関する様々な課題を解決できるノウハウを持つ民間給食事業者を留萌に進出させて、留萌の学校給食センターを買い取っていただくことで、国に対して、補助金等を返還する。これによって、365日稼働させられる子育て支援や食品製造の拠点を留萌市に形成してもらおう。そして、留萌市の企業として、既存の地元事業者と連携して、留萌市を拠点に学校給食を含めた長期休業中の給食や幼稚園などにも給食が提供できるような、将来は人口減少によって、ますます調理員不足が多くなっていくふうに考えております。高齢者や地元企業などの社食等にも給食が提供できるような、そんな体制を構築したいと考えていたところでございます。

そのためには、これらのノウハウがある民間活力を活用することが重要であるとの考えに至ったところでございます。調理員は市内外から民間事業者が集め、不足の場合は、社員を留萌市に移動させることで解決ができるものと思っております。

レベル4の代替食材を使ったアレルギー対応給食の製造も、既に民間給食事業者であればノウハウを持っていると伺っております。

さらに、給食センター売却益により、学校給食にかかる補助金や交付金を国に返還することで、先ほども申し上げたとおり、365日稼働する給食センターを作り、民間の活力を利用して、他の自治体の給食の受け入れや幼稚園などの給食も受け入れる。さらには、夏休みなどの長期休業中の給食提供も民間給食事業者がノウハウを持っておりますので、これも実施できる。

さらに、今まで意見交換を行ってきた複数の民間給食事業者は、いずれも安全安心な学校給食の提供を行うという点では、学校給食法に基づく基準はもちろんのこと、それ以上の高いレベルでの独自の安全基準等を持っておりまして、保護者の不安や懸念を十分に払拭できるものと確認をしているところでございます。

新たな子育て支援の拠点として、給食の製造拠点として、給食センターを生まれ変わらせることができると考えたところでございます。

当然、進出してくる民間給食事業者と地元事業者は、契約により共存共栄を図ってもらい、給食数の減を新たな給食サービスの

	<p>実施で補って、地元の事業者にもメリットが生まれるものと思っていますところでございます。</p> <p>また、学校給食センターの売却益で、国へ補助金等を返還することは、より一層、留萌市の財政指標が強化され、より安定的な財政基盤を確立することもできることとなります。もちろん財政負担の軽減も図られ、これを食材や光熱水費の高騰の影響を受けて値上げを検討している学校給食費を据え置く予算に置き換えて、保護者の負担も軽減していきたいと考えているところでございます。</p> <p>さらに、この取り組みにより、民間給食事業者が留萌市に進出することで、新たな雇用や事務職員、配送職員など、新たな関係人口も増えるというふうに見込んでございまして、人口減少の解決の一種にもなると、市長部局では考えているところでございます。</p> <p>確かに、この取り組みは、学校給食法など関連法が掲げる従来の考え方とは違う、全く新しい発想での取り組みであり、留萌市が行おうとすることは、学校給食のあり方に一石を投じる新たな提案にもなるかと思っております。そういった点からも、教育委員の皆様が不安に思い、懸念されるということも十分に理解しているつもりでございます。しかし、今、直面している学校給食や子育て対策の課題を解決するため、市と市教委が知恵を絞り、工夫した取り組みだというふうには思っております。</p> <p>日本社会全体が人口減少に陥るといった状況においては、特に人口減少が顕著な地方においては、学校給食法が定める小中学校を設置している自治体が給食を提供するという、このモデルは、もはや限界が来ており、留萌市と同じようなことを考える自治体、また、研究者は決して少なくないと思っております。それを証拠に道や道教委は、この留萌市の取り組みを受けて、今年6月に学校給食にかかる制度の見直しを国に提案、要望しております。</p> <p>子どもたちのためにも、これから先も安全安心な学校給食を安定的に子どもたちに提供して行くためにも、そして、多くの保護者が望む給食提供やアレルギー対応給食を実現するためにも、市教委からの提案を教育委員の皆様には、今一度しっかり受け止めていただき、子どもや保護者を第一に、市政に市民の声を反映させていただき、時代の趨勢を見極めたご議論を深めていただければと願っているところでございます。</p> <p>私からは、以上です。</p>
中西市長	<p>はい。ただいまの説明を受けまして、関係者の皆さんから、最初にご意見をいただきたいというふうには思っております。</p> <p>まず初めに、留萌市学校給食センター運営委員会、安達会長に意見を求めたいと思います。</p>
安達会長	<p>こんにちは。留萌市学校給食センター運営委員会の会長を務め</p>

	<p>ております安達と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>留萌市の学校給食センター運営委員会の方では、民営化については、これまで事務局の方から導入検討の状況の報告というのがあったんですけれども、現時点において正式な審議も、それから協議も行っておりません。また、委員会の委員につきましても、様々な意見があると思います。また、運営委員会そのものが諮問機関であるという背景がございますので、会長としての意見を述べるのは、ちょっと差し控えさせていただきたいと思うんですが、PTAの会長の立場として、一保護者の立ち位置として意見を言わせていただきますと、学校給食って、やっぱり毎日子どもが口に入れる、そういうものが常に安全で安心であってほしいのは、当然のことだと思うんですね。でも、それ以上に、事業の安定、継続性が最も重要だと考えています。保護者の立場としては、やっぱり子どもたちが、どのような学校給食を受けるのかということに注目しておりまして、特に、先ほど副市長の方から話ありましたけれども、現在レベル3まででしたか、要するに学校給食側でアレルギーの問題が対応できていない。実際、私の妻も、毎朝毎朝、学校給食の献立を見て、「今日は、うちの子どもが食べられない」と言って、代替食を持たせるという状況にあります。やっぱりそういうことが、新しいサービスが入れば、民間化されれば、できるということは、私も非常に期待しているところであります。以上です。</p>
中西市長	<p>はい、ありがとうございます。学校給食センター運営委員会としては、これから委員会から諮問が出て、色々話し合われるということになると思います。</p> <p>今日は、意見を聴くということを重点に進めさせていただきますので、安達会長の運営委員会の状況と、PTAとしてのお話ということで承りたいと思います。</p> <p>次に、学校給食会の加藤会長、お願いいたします。</p>
加藤会長	<p>お疲れ様でございます。留萌市学校給食会の会長及び緑丘小学校のPTA会長を務めております加藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>まず給食会としましては、安達会長と重複しますが、学校給食の今後の民営化についてということで、事務局からは導入検討の状況などの報告はございました。</p> <p>ただ、給食会としましては、それは協議、判断する組織ではございませんので、委員のそれぞれの意見等を聴取はしておりません。</p> <p>私も一個人として、保護者の一人としての回答になりますけれども、この学校給食事業が、今後の直営、民営に関わらず、子どもたちの安心安全な学校給食を提供していただきたいというのが素直な感想であります。先日の給食会の臨時総会がございまして、</p>

	<p>この資料の中でも、アレルギーのお子さんがたくさん見受けられます。これが子どもたちにも学校給食の充実が図れるのであれば、私個人としては、賛成なのかなというふうに考えております。ただ、物価高騰により、食材の価格がどんどん上がっておりまして、給食会についても、大幅な今後の収支不足が見込まれると思いますので、先日開催した臨時総会において、給食費の改定については、教育委員会への内申を決定したところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
中西市長	<p>はい、ありがとうございます。先ほどの安達会長と同じように、今後、会の意見聴取というのにも必要になってくるかもしれませんが、その節は、よろしく願いしたいと思います。</p> <p>それでは次、留萌市小中学校校長会の早坂会長に意見を求めたいと思います。</p>
早坂会長	<p>はい、留萌市小中学校校長会会長の東光小学校の校長の早坂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>今のお二方のお話と同じように、校長会としましても、この問題について、特に公に協議したことはありませんので、校長会として統一した見解ということは出せないんですけれども、ただ今回こういった形で校長会代表としてのご案内いただきましたので、市内の各校長先生には、意見はないだろうかということで、私の方から個別に打診をいたしまして、何名かの校長先生からは、ご意見いただきましたので、そういったものを踏まえまして、お話をさせていただきたいと思いますが、まず、それぞれの校長先生も統一して申し上げていたことは、先ほどから説明があったとおり、学校給食はやっぱり安全安心な学校給食を継続して安定的に供給していただくというのが一番の目標になるのかな、学校側としての要望もそれになるのかなと思っていますので、まず、そこだけは外せないところで、ただ、これは公営だろうが民営だろうがどちらでも、それを実現できるのであれば賛成でも反対でもない、そういった立場を取らせていただきたいと思います。</p> <p>それと細かいことを申し上げますと、学校も働き方改革というのが進んでおりますので、そういった面から言うと、今、学校給食に関しての事務が学校の方で取り扱っていることが多くあって、もちろん、その学校給食費の徴収ですとか、そういった部分についても集めて学校給食会に納めると、そういった事務を行っております。また、未納問題というのもありまして、それについての対応を学校でやっているというところがありますので、こういった部分が解消されるのであれば、それは歓迎できるのかなと考えているところです。</p> <p>それと先ほどからお話いただいているように、アレルギーに対する対応。これについても学校としては特に無いんですけど、毎</p>

	<p>年そういった要望も上げているところで、なかなか実現が図られていないところがあるので、これも前進するというのであれば、まあ歓迎ができるかなと。</p> <p>ただ、一番大きな懸念としては、学校教育という立場がありますので、学校教育を推進する立場から学校給食を通じた食に関する指導、これについては学校としては進めてきているところで、これは国の指針を受けて、道教委も栄養教諭を各市町村に配置をして、その栄養教諭が中心となって指導も行っていると、そういった実態があるものですから、これが後退することに関しては、懸念されるころかなっていうふうに思いますので、そこが、道が手を引くことであれば、市の方で責任を持って、その辺りも進めていただければありがたいかなと、そんな考えを持っているところです。</p> <p>校長会としては以上です。</p>
中西市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>ちょっと私からあれなんですけど、学校における食育授業というのは、1年間でどのくらい行われているんですかね。</p>
早坂会長	<p>はい。それについては、学級指導という中で計画的に行っていて、各学校でそれぞれまちまちなんですけれども、うちの学校では、年間3回、4回というふうにして回数を組んで、栄養教諭が中心となって、子どもに指導を行うということを行っております。</p>
中西市長	<p>たぶん給食センターとは関係無いのかもしれないですけど、例えば、田んぼでの田植え、稲刈りっていうのを、今までもやっていると思うんですけど、それは各学校が参加して、何年生かっているのを基準にやっているという状況ですよ。</p>
早坂会長	<p>そうですね。そういったことも含めて食育なんですよ。それについて、学級指導という中で、うちの学校は5年生が社会科の学習と関連して参加していると思うんですけども、そういったものについて含めながら、その一部をやっぱり栄養教諭が負担して行っているというのが現状です。</p>
中西市長	<p>ありがとうございます。それでは続いて、留萌商工会議所の堀松副会頭に意見を求めたいと思います。</p>
堀松副会頭	<p>ちょっと体調崩しておりまして、聞きづらいところが多々あるかと思いますが、お許しいただければと思います。</p> <p>まず経済界から立場から言わせていただくと、民間委託することにより、学校給食はもとより食品製造の拠点化が図られ、配食サービスの展開拡大とともに大きな雇用創出が期待できると考えております。経済界といたしましては、これが一番の要かなとっておりますので、あとは進めていく中で、これを展開していければいいかなとっております。</p> <p>また、せっかくこういう機会をいただきまして、私も思うところがありますので、ちょっと述べさせていただきたいと思います。</p>

	<p>民間委託、スクールランチに関する一切の件は教育委員会にて進めていくものと思いますので、個々の詳細については、会議録に記載されていますので、ここでは触れず、保護者・教職員のアンケート結果、教育委員会の第6・7回の定例会会議録を拝見して率直な意見を述べさせていただきます。</p> <p>昨年10月からの報道先行に不信感を抱くも、そこから約10か月間、想定される課題について説明、修正を加えて進めていく中、委員の方々からは、その場しのぎとしか思えない対応策しか示されず、ただただ個人的感情を押し付け、「白紙にして、より一層の議論を重ねていきたい。」とのこと。会議録では、真摯に問題、課題に取り組んで前に進もうとしている市教委とは対象に、決して交わらない委員の方。委員の中には、まさに教育を通して、子どもたちに触れてきた、今も教育の真ただ中にいる方もいるように見受けられます。会議録の中には、「子どもの健全な発展のため」とか、「学校給食は子どもたちのため」「教育の一環として」とか、「私たちは、子どもたちのために思って」とか、「これだけ留萌市の子どもたちのために、私はしてきているのに」とか、どうも子どもたちのためという言葉の呪縛にかかっているかのように読み取れます。</p> <p>一度、その呪縛を取り除いて、調理員体制、施設の老朽化、アレルギー対策等、改めてそのフィルターを取り除いて見直してみるのも良いかなと思っています。</p> <p>そしたら、「教育委員会でもよい」との声があるかもしれませんが、子どもは親の背中、大人の背中を見て育ちます。報道先行による不信感、個人的感情で議論が進まず、平行線を辿っている状況を、保護者、子どもたちも注視しています。それが果たして、教育の一環と言うなら、私はその教育に疑問を抱くばかりです。どうか最善の方向に向かうことを望みます。</p> <p>以上でございます。</p>
中西市長	はい。ありがとうございます。1件だけ。商工会議所において、物品の納品業者から何かご意見だとかはありますか？
堀松副会頭	いいえ。特に今の段階では、そういうことはまだありません。
中西市長	はい、わかりました。それでは、最後に留萌スポーツ協会、伊端理事長に意見を求めたいと思います。
伊端座長	<p>はい、伊端です。よろしくお願いいたします。</p> <p>私もスポーツセンターとか、図書館とか、民間の立場で管理していることで、大変興味がありまして、新聞報道をみたり、議事録を見たり、前回の傍聴もさせていただきました。私、最後に喋るってことは、市の回し者でございませぬので、あくまでも客観的にご意見を述べさせていただきたいと思います。</p> <p>まずもって、基本は万機公論に決すべし。諸問題の解決には、多様な意見を聞くことは大事だと思います。ですから、まずもっ</p>

て市民アンケートの結果は、尊重すべきですし、学校給食センター運営委員会への諮問、これは多様な意見を聞くためにも行うべきと考えます。

他方、議事録等を見て、教育委員会の説明についてですが、民間委託ありきの議論に憤慨なさっている教育委員のお気持ちは、お察しいたします。民間で期待できる効果について、子どもたちが喜ぶ、多様で多彩に給食の実施とありますけれども、現段階で、子どもたちが喜ぶかどうかは定かではありません。あまり綺麗事のように聞こえるので、そういった点は強調しなくてもいいのかなと思います。もし、仮に民間に委託する場合には、契約の際にそのことを強く求め、評価・検証を繰り返すことで、質を高めていくのが現実的と感じます。

また、食物アレルギー、今まで数名の方からご意見ありました。まだ業者も決まってない段階において、食物アレルギー対策を向上させたいということは間違いはないんですが、確実に上がるかどうかというのは、現段階ではあまり言わないほうが良いのかなと、個人的には思っております。

さて、さっきも言いましたが、議事録を見て、傍聴させていただいた私の感想ですが、こうした会議体は、ともすれば行政が説明をして、それを追認するような会議になる傾向が強いと私は思っています。そんな中で、色々批判や反対があるのが、むしろ健全であり、特に給食は子どもたちの口に入る食べ物なので、慎重な姿勢も当然であると思います。ただし、主要テーマである、皆さんから随分出ていますが、安心安全ということですから、慎重な姿勢も当然ではありますが、課題の本質、すなわち給食の提供が困難になりそうな事態に対応できておらず、危機管理の観点から、とても残念に思っております。

生産性のない議論、時間を浪費していると私は感じております。

ですから、中の意見には、白紙に戻すという意見もありましたが、白紙に戻してから議論やり直すにしても、論点は調理員の安定的な確保、将来の財政負担も軽減、食育の推進と栄養教諭の配置などでありますから、既に様々な意見が出ており、全く白紙に戻すというのは、時間の浪費と、私は思います。

まずは、調理員の安定的な確保が先決です。ここでは、安定的な収入なくして、人材確保は困難と認識する人もいます。私もNPOの民間ですけど、今、本当に人集め大変です。人を集めるのに大変で、特に夏休み、冬休みは仕事が無いというのは、私は、最大のネックだと思っていて、時間単価を少し上げたところで恒久対策にはならないと、私個人的には感じております。

ですから、多様な意見に耳を傾け、民間委託は有力な選択肢なら、これ排除すべきではないと思います。合わせて、この機会に将来の課題解決に繋がる道を探ると良いと思います。将来の課題

	<p>とは、食物アレルギーへの対応、財政負担の軽減、食育の推進などであります。</p> <p>私が言うのもなんですけども、留萌市は、夕張市のような財政難のマチでありました。赤字が続く病院のこともあり、負担軽減は至上命題だと思っています。改めまして、教育委員会の活発なご議論に敬意を表しますが、様々な課題の解決策について、民間委託以外の選択肢があるならば話していただき、また、民間が駄目な理由があれば、それを詳らかにしていただき、議論を深めていただきたいと思います。</p> <p>民間委託をした場合としない場合、それぞれのメリット、デメリットを検証して判断すべきなのは当然ですが、私は、民間委託できなかった場合のデメリット、これも考えることが重要と思います。いずれにしましても、現時点で、現実的で生産性のある議論に移っていただき、民間にするにしても、しないにしても、ちゃんとしたエビデンスに基づき、保護者や市民に説明できる状態にさせていただくことを強く望みます。</p> <p>以上です。</p>
中西市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、これまでの説明や関係者からの意見を踏まえて、教育委員の皆さんからご意見をお伺いしたいと思います。</p> <p>まずは、教育委員の皆さんが、自分がこう考えるというお話をしていただいて、様々、今日来ていただいた方々の意見について、ご質問等については、一通り回ってから、もう一度、ご質問を受けたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>最初に、西川委員の意見をお伺いいたします。</p>
西川委員	<p>西川です。</p> <p>先ほどから、私に対する感じがあったんですけど、この会議の感じは、私たち反対している委員に対して、すごく威圧というか感じる会議かなっていうふうに思っています。皆さんが「賛成だ。賛成だ。何で反対するんだ」っていうところから始まっているので、私が、またこう言うと「子どものことばかりとか」、先ほど言っていましたけども、「私は子どもの仕事をしているので」とか、そのようなことをどうかなっていうふうに思うんですけども、私としては、先ほどから何回か出ていますけど、白紙に戻すっていうことは、最初に、この5つの拠点、先ほど副市長が言ったようなことが、10月の新聞記事の前に何かひとつでもあって、「給食センターは大変なんだ」ということがわかって、その新聞に載ったということがあった場合は、少しは考える余地があるのかなと思ったんですけども、「いきなり新聞報道が先に」って、「子どもみたいだ」って、そこを言う人はいますけれども、やっぱりそこが私の不信感であって、どうしてこういう話が新聞社に流れたんだろうっていうところが、本当に大きなところなんです。それで</p>

	<p>反対っていうか、まだ不信感っていうか、そういうのがあるから、「10か月間も議論している」って言いますが、これは最初出してから、今年に入ってから審議になったことであって、出ても、次から次と「もうやるありき」で、私たちの意見は聞いてもらえず、本当にそういう感じできているので。どうして、こういうふうに話があってしまうんだらうなっていうのも。</p> <p>新聞報道でも、私たち教育委員が反対していることが悪いっていうふうな感じに読みとれるような記事だったりとか、本当に、私の意見として言っていることなのに、反対している人が悪い感じで流れてしまうっていうのが、すごく悲しいなって感じで、今までできています。</p> <p>私も、「子どもの安心安全な給食を」というのは、思いであります。民間委託が本当に子どもにとって良いのかっていうのも疑問にあったりとかしています。それで、今まで「どうなんだらう」っていうことを言ってきたので、そんな「感情だけで」とか、そういう問題ではないです。うまく言えないんですけども、そんな感じなんです。</p>
中西市長	<p>西川委員のその報道、そして、たぶん教育側でなくて、市側に対する思いが強いのかなというふうに思います。</p> <p>私、今、座長の立場なので、あんまり私が言うと、ちょっとあれなんで、副市長に答えてもらいたいと思います。</p>
渡辺副市長	<p>はい。お答えいたしますけれども、新聞報道に出してしまったことについては、市教委などからも、何度も謝罪の言葉があったというふうに思っています。我々も、色々調査しましたけれども、その出所は、正直言ってわからないというのが実態でございます。そして、先ほど、感情だけの問題ではないというふうに西川委員がおっしゃってございましたけれども、あの新聞報道によって市長部局には、不信を持っているということは、大変申し訳ございませんけれども、感情でお話されていることなのかなというふうに言わざるを得ないと。</p> <p>一番問題なのは、今、市教委で学校給食が提供できなくなる可能性があるという事態。これに対して、どう対応するのかというのが、市長部局も、市教委も、最大の課題だというふうに思っております。先ほど、色々な狙いがあるということをお話しましたけれども、特に一番問題なのは、やはり、この学校給食の提供が調理員の不足によって、できなくなってしまう可能性がある。それも、これから先も、人口減少が続いていけば、ますます調理員の確保が困難になっていく。これは留萌市だけの課題ではないと思います。全国的な課題だと思っておりますけれども、これに対して、どう対応するのかということ、ぜひ教育委員会の委員の皆様には、ご議論いただきたいと思っておりますし、新聞に出してしまったことに関しては、私どもは、どうしようもないという</p>

	<p>か、不信感を持たれても、10月15日、来月の15日で1年に、この報道が出てからになります。その間に、学校給食を取り巻く環境というのは、どんどん悪化しているというふうに思っていますし、また、子育て支援の面から、先ほど申し上げたとおり、子ども家庭庁や厚生労働省からも長期休業中の給食の提供を求めるような通知が来ているという実態です。これに、いち早く対処していかなければならないということを考えた場合には、教育委員の皆さんにも、市教委の提案でしっかりと議論を深めていただいて、それでも直営がいいのか、それとも民間委託でなければいけないのか、そういったところを、整然とお答えを私どもに示していただければありがたいなというふうに思っているところでございます。</p>
中西市長	はい。
西川委員	<p>報道が先行になったということは、私も、ずっと言ってきましたけども、本当にその出所がどこかわからないところも、じゃあ新聞局が嘘をついたのかとか。ですよね。どこかはわからないのに、スクールランチ、それもコープさっぽろってところまで、もう書いているということに対して、事前交渉があったんじゃないかっていう、私は不信感を持っています。そこら辺、本当にしてないのかどうかというところを確かめたいというか、それをしてほしいなというふうに思います。</p> <p>それで、私も子どもの仕事を、この40年間、保育士としてきました。先ほども、何回も「子どものこと」「子どものこと」っていうふうに、そこから切り離れた方がいいんじゃないかっていう意見もありましたが、保育士として、子どもに「嘘をついちゃいけませんよ」とか、「悪いことをしていけませんよ」って、ずっと40年間そういうふうにして仕事をしてきた私の信念でもありますし、親にもそういうふう育てられました。</p> <p>それで、本当に副市長さんも教育長もみんな、事前交渉はしてないのか、本当にコープとのそういう話し合いはしてないのかというところを、私は本当に追及したいです。そこまで言われるのであれば、なので、もし、そこが本当にしてないよっていうことがわかれば、また審議っていうか、子どものために頑張っていきたいなというふうに思いますけれども、本当にそこをしてほしいなというふうに思いますので、第三者委員会でもいいですし、そこら辺、本当に徹底して、私はしていったほしいなと思います。ちょっとお願いです。</p>
中西市長	<p>第三委員会までの話になると、ちょっと、それはまた別問題で、まず、市の方で、企業誘致を進めるにあたって、その辺で、まず話してください</p>
渡辺副市長	<p>はい。それは私の方からお答えいたします。事前交渉という言葉がどういう意味を持つのかわかりませんが、事前交渉、交渉な</p>

	<p>どは行っておりません。ただ、コープもそうですし、他の給食事業者とも意見交換は間違いなくしています。これからプロポーザルをかけるにしても何にしても、公平な手段で行っていくに当たって、当然、民間給食事業者ができるのかどうなのかから始まって、こういった課題を解決できるのかということも含めて、意見を聞くことは、仕事を進める上で当然の話であって、コープと意見交換、また、コープは新聞に名前が出ましたので今は使いましたけれども、当然、他の給食事業者とも意見交換は、現在も行っていきます。</p> <p>そういった中で、今後我々が提案する条件で最も良いところがプロポーザルを落札させるのかどうなのかわかりませんが、この意見を聞かなければ、こういった事業、これは何も今回の学校給食の取り組みだけではなくて、他の取り組みにおいても、当然、様々な方たちから意見を聞くというのは、当たり前の話だというふうに思っていますので、事前交渉は行っておりませんが、意見交換は、しっかり彼らのお答え、また、意見なんかも聞いて、参考にさせていただいていることは事実でございます。</p> <p>以上です。</p>
中西市長	まだ、いいですか、話。
西川委員	はい。
中西市長	はい。山本委員、お願いします。
山本委員	<p>お願いします。山本です。</p> <p>基本的に、最初から話したいことがあったんですけど、今、この件について、先にお話します。私も全く同感なんですよ。</p> <p>10月の新聞に出た時、先輩諸氏や留萌に住んでいる先生、退職した方から、「山本。教育委員として、この給食センターの問題を教育委員会で話し合ったのか」と。「いや、もちろん、全然知りません。初めてです。」</p> <p>まず1点は、この教育委員会の在り方。このことについて、疑問を感じます。そして、2点目、は今、西川委員がおっしゃった点ですが、私は全く納得できません。今までの答弁の中で、市議会の答弁の一般質問で、1月の例会で、珍田議員の質問に対して、「スクールランチの事業の方向を、いつ頃、判断されましたか」ことで、教育長さんがお話ししています。「留萌市にとって市長部局で話して、留萌市にとって、高い効果が見込まれるという判断があり、7月に入ってから、教育委員会として、スクールランチの導入を検討しました。」と答弁しています。これについても、全く私は知りません。もしかそうであれば、10月15日の報道について、私は、「継続的に話し合いが持たれたのではないのでしょうか」、僕はそう思っているんです。個人としてではなく、組織として事前に協議はされていた、難しい言葉はわかりませんが、協議はしていたんじゃないかと思う。</p>

	<p>先ほど副市長が「事前交渉はしてない」という話は、全く僕は納得できません。私は勉強不足ですけど、これから入札を行う企業との事前交渉は、僕は公務員倫理違反に問われるんじゃないかと、法律でいう入札談合等関連防止法ですか、それに接する可能性があると思っています。</p> <p>ですから、私もコープさっぽろとの事前交渉のあるなしにつきましては、市役所の職員以外の弁護士などの法律の専門家で構成する調査委員会の設置を要求いたします。</p> <p>だから、なぜ白紙撤回って西川さんが言ったかっていうのは、私たちはもちろん、「子どもたちのために」って何回も言うっていうけれども、そこをしっかりと考えてやっているんだけど、そこを抜きにして、事前に話されていたとしたら、とんでもない問題じゃないですか。私は、子どもにも「嘘つくな」。これだけは絶対。体罰はしませんでしたけど、嘘ついちゃいけない。僕は、この部分が納得いくまでは、そういう意味で、話し合いはできないんじゃないかと、そう言った。</p>
中西市長	<p>嘘つくとか、嘘つかないとかっていうことじゃなくて、やはり役所的に様々な業者からの提案というのがあるってことで、これは理解していただけたと思います。その中で、話を様々、「どういう形で、それができるのか」っていうことだと思うんです。</p> <p>申し訳ないですけど、ちょっと団長の座をあれして、平成15年に、私が政策調整マネージャーということで、手数料、使用料から事業の見直しというのは、市の非常に重い課題でした。</p> <p>その中で、既に給食センターが非常にやはり人の、まあセンター長が一番汗をかきながら調理員を集めて。それであれば、業務を民間に委託してもいいんじゃないかということで、お話をしてきたんですけども、業者からは、業者もたくさん来られているんです。「うちではこうできるよ」とか。でも、結局、什器が、什器というのは調理器具ですね、これが古いから、まず「市として、この古いものを新しくしてくれ」ってことで、今までかかってきて、それで、たくさん業者くるのかなと思ったら、逆になかなか提案を受け入れない。その中でコープさんからちょっと話があった。ただ、他のところからも、その後は何件か来ているってことでご理解をいただきたいと思います。</p> <p>少なくとも、私どもは、民間じゃなくて、公的立場ですけども、最終的には、やはり入札ですとか、公の部分で決めていくっていうことを、理解はしてほしいなというふうに思います。</p> <p>それでは、次。室本委員、お願いします。</p>
室本委員	<p>はい。室本と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>先ほどから、報道からっていう話だったんですけど、私も初めて新聞見た時は、「そんなこともあるんだな」と思いながら、「そのうち教えていただけるのかな」と思ったのが、その時の気持ち</p>

です。私、実は、その前の平成20年ぐらいですか、学校給食を民営化にしたいという時に、運営協議会の諮問を受ける側にいたと思うんですよ。その中で、色々なお話を受けて、その時は、とりあえず、作業だけを、調理の業務と配送業務だけを、なんとか民間に委託できないかという形で色々やったんですけど、先に物を直す方がいいんじゃないかってことで、それを成し終えた後に、またもう一回、協議をしましょうという形で締めたことがございます。

そんな形で、今回、市教委さんの方から学校給食センターの民間委託化についてという形で、導入計画書が出されました。

いくつか私がよくわからない点があって、各担当者にご質問いたしまして、修正もかなりなってきたております。当初、「見積が甘いんじゃないか」とか、「これちょっと違うんじゃないの」というのも、だいたい、ほぼ完璧に直されています。

一番最初から懸念していた栄養教諭。当初、「管理栄養士など」という書き方でできておったんですが、前回の会議に、しっかりした栄養教諭をつけるというふうに変わってきております。

議論の中で、最初すごくアレルギーの話もあったと思うんですが、他の委員の方々が、どうしても栄養教諭について懸念を示したというのがすごく覚えております。そんな形で、色々、様々、クリアになってきております。

そういう形で、今後、教育委員だけではなくて、様々な方々の意見を聞くために、給食センターの運営委員会に早めに諮問するのが、本来の教育委員の務めではないかというふうに考えております。本当に、様々な点が直ってきております。

一番大事なものは、やっぱり学校給食の安心安全な提供。本当に、センター長は、すごく大変だったと思います。話を聞いたところ、15名でやらなきゃならない給食を8名でやっていて、本来であれば事務職員の方々も、お手伝いに参上しているという形を聞いておりました。本当に休みを取るのも、ゆるく無いような勤務体制で、民間なら本当に、もしかすると潰れているのかというような本当に一大事だったと思います。

今後、どういう形になるかわかりませんが、もう十分に議論といますか、意見は出尽くしたと思うんですよ。

先ほどから感情論とか、不信感って話が出てきておりますが、私どもの役割をもう一度思い出して、給食だけでなく、教育委員としての務めをもう一度鑑みて、議論していただければと思います。

私も、何回も言っていたんですが、何かのことに否定することに対して、やはり対案、これを持たないとできないと思うんですよ。聞いてなかったから嫌とか、学校給食がこうあるべきだという意見は、色々あると思うんですが、やはり皆様方が一生懸命出

	<p>してきて、知恵を絞ってきて、議題に挙げておるので、やはり感情とか、そういう形で会議を進行するのは、ちょっといかがかなと思いますので、私の意見でございます。</p> <p>以上です。</p>
中西市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>そうしたらですね、委員の皆さんから、例えば、先ほど学校給食会ですとか、運営委員会ですとか、述べられたことに対して何か、ご質問、ご意見があったらお願いしたいと思います。</p> <p>逆に、本日出席していただいた方から、委員の皆さんに聞きたいことがあれば、聞いてみてください。</p>
伊端座長	<p>意見というよりも、私の考えなんですけれども、私、昔23年間、留萌新聞の新聞記者をしていました。</p> <p>その記者の認識で、ちょっと言わせてもらいますと、記者は、基本的に全部とは言いませんが、市民の側に立って記事を書いております。給食センターの民間委託の話題っていうのは、ネタとしては結構上位にくるネタだと思っていますので、だから道新さんの全道版の一面で報じた。それだけ関心のあるテーマだったと思います。</p> <p>それから、皆さんが知らないものが記事に出るっていうのは、実際よくある話で、新聞記者は、皆さんが知らない話を書くのが仕事でありまして、むしろ皆さんが知っていることを書くんだったら、別に記事の価値が下がるわけですから、そんなのは僕の中では、普通ですね。</p> <p>給食センターの問題は、例えば子ども、親、おじいちゃん、おばあちゃんも含めて、留萌の人口の1~2割に関係するような話ですから、やはりテーマとして、ポンと挙げるのは当然。</p> <p>それから先ほどやり取りになりましたけども、私たちもそうですからね。何かを決める時には、事前にリサーチをするっていうのは絶対ありますので、もし給食センターが公募をして、誰も受け入れなかったっていう話には、きっとならないので、世間の常識としては、それは普通にある話だと思っていますし、新聞記者が抜いたっていうのも、極々普通で、読売でも朝日でもいいんですけれども、国会議員に忖度して記事を書かないような記者にこられたら非常に困るので。僕は、抜かれたことは、これもしょうがないけど、ごく普通のこと、「ネタ元は」といったら、新聞記者は絶対ネタ元はリークしませんので、きっと誰かが言っているんでしょうけども、これは追及しても、不毛な議論になるような気がして。何か法律に触れることではないので。僕は聞いていて、委員の皆さんが反対しているっていうのも、僕の昔、新聞紙屋をした関係で、そう思いました。</p> <p>それから、議事録の中にあっただんですけれども、アンケートを疑う意見があったんですが、これは当然なんですよ。アンケート</p>

	<p>って、どっちかという、誘導的で作為があるぐらいに見たほうが、実は見ると全てのアンケートを疑えば、疑えます。間違いなく。むしろやる側にしてみれば、作為があって初めてやるっていう、絶対にうんとは言わないでしょうけど、そういうもんだと、僕は思ってますので。ただ、大目に見てというか、少なめに見てというか、9割ぐらいの人が、今のままなら良いを含めて、前に進めている中で、穿った見方をして減らしたとしても、3人に2人ぐらいは、「前に進め」って言っているの、まさに冒頭にも述べていましたように、万事公論に決すべし、多様な意見を聴いて、民間委託にした方がいいのか、悪いのか、そういった論点で議論していただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
中西市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他に意見はございませんか。</p> <p>あと、委員さんの方から、まだ何かあれば。</p>
山本委員	<p>そうしたら、私全くわからないですけど、最後確認したいんですけど、法律に触れるようなことは、一切ないということなんですか。</p>
中西市長	<p>全然ないと思います。</p> <p>何か根拠とかあれば別ですけど、基本的には仕事としては、本当に明るみに出ない仕事っていうのは、たくさんあると思うんです。交渉しながら、当然、市長という立場で行けば、市制施行方針を出したり、4年間の考え方を示したりという中で、色々職員が動いてくれて、進めていくっていうやり方で、最終的には委員会が認めないと前に進まないし、最終には議会で協議をしていく。そうして、予算が付くか付かないかというふうになってきますので。先ほど室本委員からも出たように、まずは運営委員会の方に諮問して、皆さんも、運営委員会の皆さんと一度議論をもらうとか、次に進める方法というのを、ちょっと考えていただければというふうに思うんですけども、どうでしょうか。</p>
山本委員	<p>先ほど市長が言った、前回、教育長が言った「反対する教育委員が対案の提示がない」趣旨のことを、室本委員も言った。</p> <p>教育委員会というのは、基本的には審議の場ですから、対案も含めて提案するのが事務局でないかと思えますね。それで、僕たちは、最初に出した企業誘致という、民間委託することが、今日は話ませんけど、学校給食法だと、時間あれですから、そもそもからいって民間委託はまずい。望まないし、色々な趣旨からも反する。だから、白紙って言葉になったかも知れませんが、それに対案をする。我々は、スタートからそう言っている。ですから事務局は、はっきり言って、当初5つ出した課題も、その課題を僕たちが知ったのは、確か11月ですね。そして、その後、課題が出てきた。そしたら、もうその時は民間委託がありきに出て</p>

	<p>きている。だから僕が言いたいのは、さっきから、*****だとか何だと言われてますけど、対案の提示がないから。でも、それは教育委員会の委員会室の中身は審議の場であるから、私たちは最初言ったものが、民間委託じゃなくて新たな提案をしてくださいって言っているんですから、そこだけ勘違い。だから、僕としては、12月の浅野議員さんの答弁をまた読んでも、あれですけどね、道教委の教育長が、「道教委では留萌市に対して、学校給食法に基づいて学校給食を実施する場合は、設置者が条例により教育機関として、共同調理場等を設定し、栄養教諭が献立を作成すること」「食育教育法を踏まえ、各学校における食に関する指導を充実させることなどについて、指導助言を行ってきたところで」って、道の教育長が答弁している。</p> <p>ですから、それを踏まえて、僕たちは、新たな民間委託っていうことを前提じゃなくて、元の課題をどうしたらやったら、調理員もどきじゃない。調理員不足は勿論分かりますけど、それは新たな学校給食を導入する案と、調理員不足は決して同一ではないです。調理員不足に関しては、処遇改善や募集勧奨、相当進めてきた。だから調理員不足は、新しい学校給食の導入案と、さも同一のような言い方していますけど、それは、僕は違う。</p> <p>以上です。</p>
中西市長	<p>私から1点言わせてもらったら、教育長にあとお願いしますけど、業務委託をやっては駄目っていうことは、無いと思います。基本的には、全国、今、直営っていうところは、学校の中に調理室があって、自家給食できることと、あとセンター化されているところは、やはり業務委託というのは、やっている実態は理解してほしいと思いますし、もう一つ進歩させれば、やはり学校給食を指定管理者っていう制度を用いて、全部管理してもらおうっていう方法もある。その中で今回、民間が買い取ってという部分が新たに出てきたということだというふうに思っていますし、あと教育長の方から。</p>
高橋教育長	<p>はい。教育長の高橋です。委託案の話の中で、市長部局に対して、事前交渉のお話もございました。先ほど企業誘致という立場で、意見交換をしているという話でございました。企業誘致の立場ではなくても、給食センターというのは、日頃、業者の方というのが訪ねてまいります。それというのは、その業者も色々な考えを持って、「自分たちのところで施設を建てさせていただけないか、それで給食業務を担わせていただけないか」という業者もいらっしゃいますし、単純に「留萌の今の給食センターの調理業務を担当させてほしいということ」を前提に、色々な話を聞きたい。または、「調理場の中を、現状ちょっと見せてほしい」というのは、日常的にそのような話はございます。それと、留萌市では、なかなか行われていないですが、北海道、国では、事前に委託事業な</p>

	<p>どを組み立てる段階で、サウンディング方式とって、業者から様々なご意見等をお伺いして、どれが一番、今進めたい事業にとって良い方向に行くのかという判断をするために、事前に聞き取りをするというような方式を採っているということも聞いております。ですのでというわけじゃないですけども、日頃からそのような意見交換というのは、給食センターの中でも行われているということは、まず理解していただきたいなと思います。</p> <p>あと、「対案の提示は、事務局で示すものではないか」というお話でございました。事務局も提案に至るまでに、様々、事務局の中で色々と検討させていただきながら、最終的に、この今の計画案に至っている状況でございます。ですので、様々、それを委託しない場合にどうなるかっていう場合の議論も内部ではしてきたつもりでございます。ですので、それらをした中で、今回の案というのが、教育委員会としても、また市としても、有効な手段ではないかという思いで、提案をさせていただいているということも、一つございます。あと、法に基づいた学校給食というような、先ほどお話もございました。教育局からも、きちんと北海道からの指導も踏まえてというようなお話もいただきました。私ども、事前に教育局、また、北海道の方に、局を通して色々な問い合わせをさせていただいておりました。私たちが今進めようとしている方式、こちらが学校給食法に反するものなのかどうかというところは、事前に確認をさせていただいた上で、今、私どもが進めようとしている内容は、学校給食法に基づく内容だというようなお話もいただいております。それと様々、その間には、色々な指導もしていただきました。それらの指導を受けながら、それらを踏まえて、今の計画提案に至っているということも、ぜひともご理解していただきたいなと思っております。</p> <p>事務局といたしましても、委託することによって何かが大きくマイナスになるということは考えておりません。これまでと変わらない安心安全を前提とした給食を、今後、たぶん人口減少というのは、全国的に、留萌でも見込まれていると思いますけれども、今後も継続して給食を提供できる仕組みとして、今回の委託方式というところに辿り着いたということも、ぜひともご理解いただきたいなというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p>
中西市長	<p>はい。これから議論をやっても、たぶん繰り返さなろうかと思っております。それで座長として、先ほどもお話させていただきましたが、まず給食センターの運営委員会の方で、まず会議を開いていただいて、今後の進め方等についても、意見をまとめていただいて、また再度、教育委員会を開いて、決していただければというふうに思います。</p> <p>最終的に、市長としての意見を申し上げますが、やはり時間が経</p>

	<p>ち過ぎると、減価償却を含めて、どんどん、市としても、大変メリットが下がってくる可能性もあり得るということも含めて、より良い協議をしていただければというふうに思うところです。</p> <p>それでは、これで会議を閉会させていただきたいと思います。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>
--	---

10 閉会宣言 午後2時38分